

議事概要の公表

令和4年 3月14日

林野庁 中部森林管理局

令和3年度第1回中部森林管理局保護林管理委員会 議事概要の公表について

保護林管理委員会は、森林・林業や自然環境に関する専門家、関係地方公共団体等で構成され、中部森林管理局管内における保護林の設定、変更、廃止、管理及びモニタリング等に関する事項並びに保護林に関連する生物多様性の保全について検討を行っています。

「令和3年度第1回中部森林管理局保護林管理委員会」を以下のとおり、WEB方式により開催しましたので、その議事概要等を公表します。

1 議事概要 別紙のとおり

2 検討内容

- (1) 令和3年度 保護林モニタリング調査結果の概要について
- (2) 令和3年度 緑の回廊モニタリング調査結果の概要について
- (3) 令和4年度 保護林・緑の回廊モニタリング調査計画等について
- (4) 緑の回廊設定方針の改正等について

－お問合せ先－

林野庁 中部森林管理局 計画保全部計画課

担当者： 岡田、熊崎

電話： 050-3160-6537



国民の森林・国有林

林野庁

令和3年度 第1回中部森林管理局保護林管理委員会 議事概要

開催方法	WEB 方式 (使用サービス: Cisco Webex)
出席委員	植木 達人 (信州大学 農学部 教授) 委員長 奥 敬一 (富山大学 学術研究部 芸術文化系 教授) 小宮山 義光 (日本野鳥の会 長野県支部 事務局長) 西條 好迪 (一般財団法人 自然学総合研究所 理事長) 竹中 千里 (名古屋大学 名誉教授) 柳 真子 (専門学校職藝学院 准教授) 山田 浩雄 (国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 材木育種センター 遺伝資源部長) 由井 正隆 (長野県木材協同組合連合会 理事) (五十音順)
議 題	1. 令和3年度 保護林モニタリング調査結果の概要について 2. 令和3年度 緑の回廊モニタリング調査結果の概要について 3. 令和4年度 保護林・緑の回廊モニタリング調査計画等について 4. 緑の回廊設定方針の改正等について
概 要	○ 委員からの主な意見 1. <u>令和3年度 保護林モニタリング調査結果の概要について</u> ・ニホンジカ被害が各保護林で確認されていることから、食害の有無だけでなく、不嗜好性植物の種類や生育状況、増減状況等をチェックすることで、シカ被害の理解度が増すと考える。 ・水無湿性植物希少個体群保護林において、周囲の植生が繁茂してくると水収支が変わり、水が樹木に取られて湿地の乾燥化が進むと言われている。ブナ林と湿地植生の保護という目的は、相反することにならないか。 ・近年、関東方面でナラ枯れが確認されており、今後注視すべきと考えるが、赤谷コナラ等 遺伝資源希少個体群保護林の周辺地域でのナラ枯れの状況はどうか。 ・段戸山周辺で起きたスズタケの一斉枯死について、ニホンジカもスズタケを餌にしていると思われるので、一斉枯死すればシカを遠ざける効果があるかとも考えられたが、現状はどうか。 2. <u>令和3年度 緑の回廊モニタリング調査結果の概要について</u> ・ニホンジカの問題については、これまでも各機関において様々な取組がされてきたが、現状のままでは、保護林をはじめとした国有林、民有林の貴重な財産も失われてしまう。地域でも猟友会等によるシカ駆除を実施しているが、猟友会の高齢化が進む中では、打開策となっていない。より真剣に、国をあげて取り組まないといけないところにきている。 ・環境省も国立公園等でシカに関する調査を実施しており、糞の分析も行うなど、様々なデータを出していることから、関係機関と情報共有するなど連携するのが良い。 ・植生の変化は、野鳥の営巣場所が失われるなど、様々な形で生態系を脅かす要因となる。シカ食性調査等のデータを蓄積・整理し、細かな対策を繰り返し講じないと、この問題は先に進まないと考える。 ・私の職場は山奥にあり、以前に比べ、フクロウの餌となるネズミを見かけないと感じていたが、その肌感覚は報告結果と一致したところ。長い目で生態系、動植物の変化や推移を見る上でも、本調査は大変有効な手段である。 3. <u>令和4年度 保護林・緑の回廊モニタリング調査計画等について</u> ・事務局案を承認する、計画的に進めていただきたい。 4. <u>緑の回廊設定方針の改正等について</u> ・「評価項目」、「確認ポイント」、各「緑の回廊設定方針」等について事務局案を承認する。中部局管内に案件が発生した際には、公正且つ厳しい目で委員会に諮ることとしたい。

以 上